2021年3月期第3四半期決算（累計）
プレゼンテーション資料

2021年2月

大阪ガス株式会社

1

大阪ガスの藤田でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の2021年3月期第3四半期決算 電話会議説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2021年3月期第3四半期決算について、当社ホームページで開示しております、プレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。
決算数値の説明に先立ちまして、1月25日に公表しましたDaigasグループ カーボンニュートラルビジョンについて説明させていただきます。

4ページをご覧ください。

目次

Ⅰ. Daigasグループ カーボンニュートラルビジョン

- □ 2050年カーボンニュートラルへの挑戦 － 4
- □ カーボンニュートラル時代における当社エネルギービジネスの絵姿 － 5
- □ カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ － 6

Ⅱ. 21.3期第3四半期決算と21.3期見通しの概要

- □ 21.3期第3四半期決算及び21.3期見通しのポイント － 8
- □ 21.3期見通しについて － 9
- □ 21.3期第3四半期決算の対前年比較 － 10
- □ 21.3期修正見通しの対前回見通し比較 － 11
- □ 21.3期見通しの対前年比較 － 12
- □ 21.3期第3四半期の成長投資実績 － 13
- □ 21.3期第3四半期の主なトピックス － 14-15

Ⅲ. 21.3期第3四半期決算と21.3期見通し

- □ 21.3期第3四半期実績 － 17-19
- □ 21.3期見通し － 20-24
- □ 21.3期第3四半期販売実績 － 25
- □ 21.3期販売見通し － 26
- □ 家庭用ガス販売 － 27
- □ 業務用等ガス販売 － 28

Ⅳ.参考資料

- □ 21.3期第3四半期の差異(対前年) － 30-31
- □ 21.3期見通しの差異(対前年) － 32-33
- □ 年度見通しに対するリスク要因 － 34

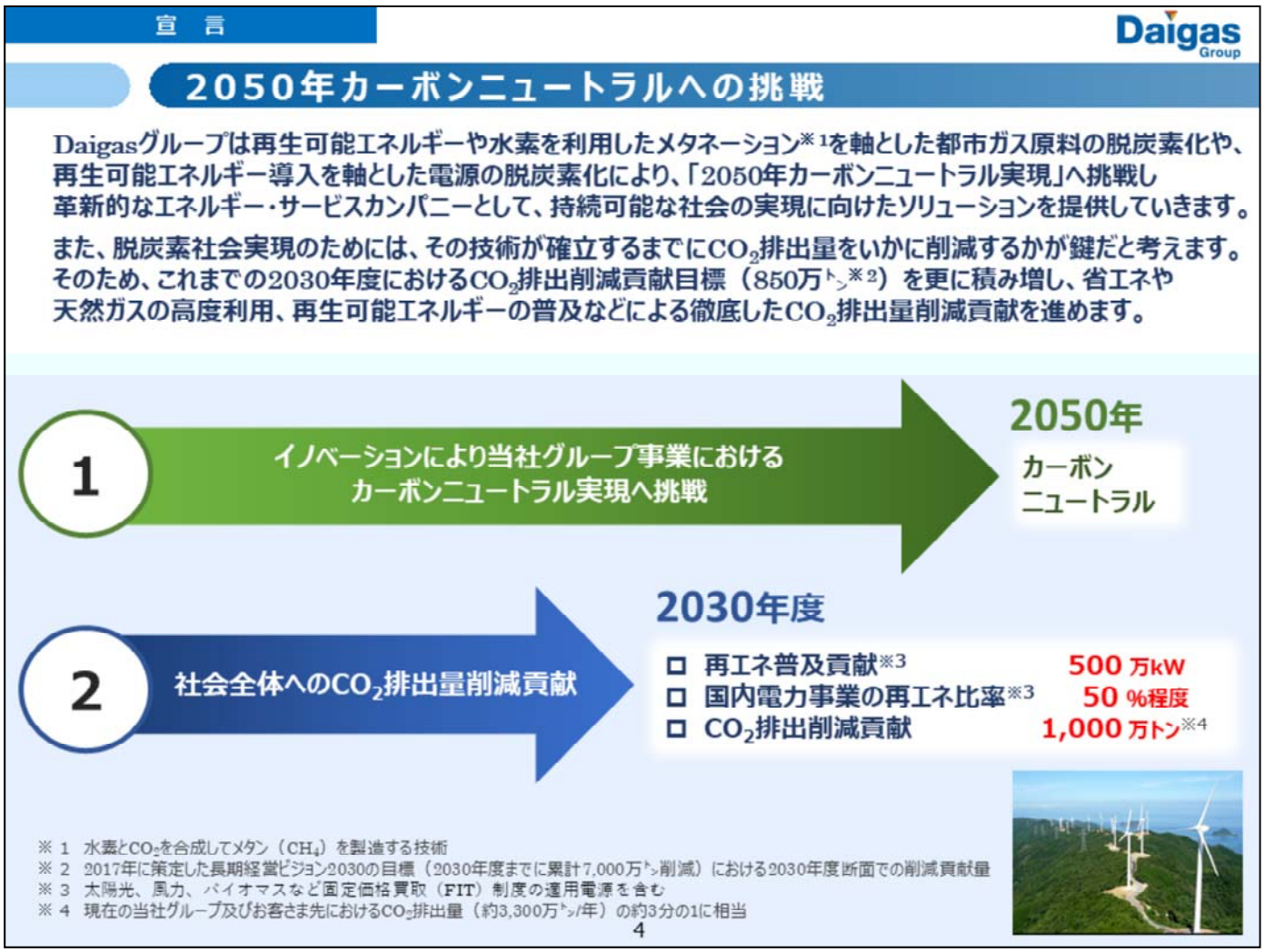
インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています ：下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。https://www.osakagas.co.jp/company/ir/

「見通し」に関する注意事項 ：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 ：全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 ：名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

I. Daigasグループ カーボンニュートラルビジョン



当社グループは、これまでもCO2排出削減に積極的に取り組んできましたが、このたび、2050年のカーボンニュートラル実現に挑戦する決意と取り組みを示すために「カーボンニュートラルビジョン」を策定しました。

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、当社グループは2つのことに挑戦します。

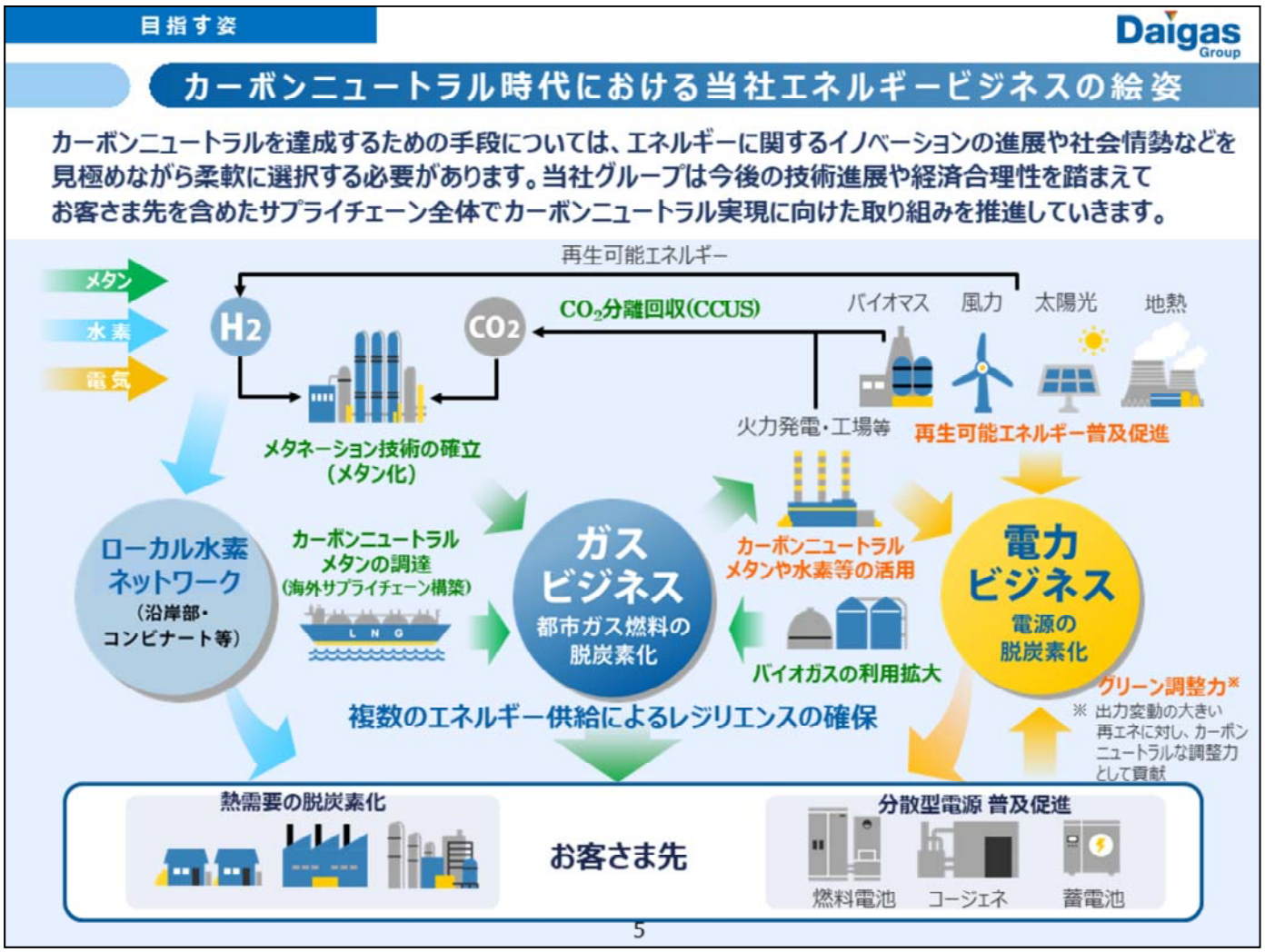
1点目として、脱炭素化技術であるメタネーションを軸とした、都市ガス原料の脱炭素化や、再生可能エネルギー導入を軸とした電源の脱炭素化により、2050年に当社グループ事業におけるカーボンニュートラル実現に挑戦します。

2点目として、脱炭素社会実現のためには、技術の確立までに、社会全体のCO2排出量をいかに削減するかが鍵であると考え、徹底したCO2排出削減貢献を進めます。

社会全体のCO2排出削減貢献については、2030年度の目標を3つ掲げます。

再生可能エネルギーの普及貢献目標500万kW、国内電力事業における再生可能エネルギー比率50%程度、年間のCO2排出削減貢献量1,000万tの3点です。

CO2排出削減貢献量は、2017年に公表した長期経営ビジョンで掲げた目標を、更に積み増したものになります。

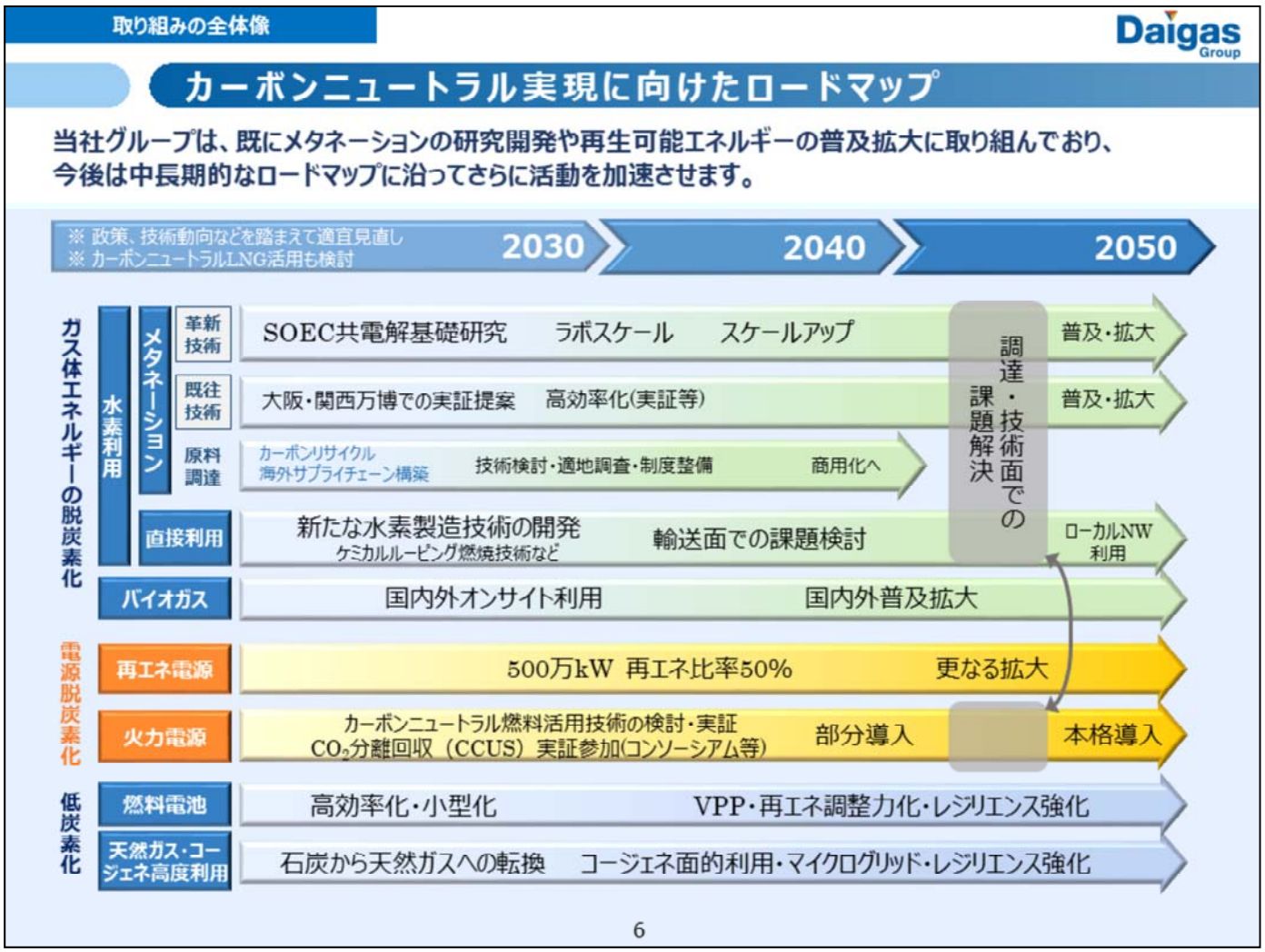


5ページはカーボンニュートラル時代における、当社グループのエネルギービジネス全体の絵姿になります。

メタネーション技術を軸とするガスビジネスの脱炭素化、再生可能エネルギーの普及促進による電力ビジネスの脱炭素化を中心に、水素のローカル利用なども組み合わせ、脱炭素化と複数のエネルギー供給によるレジリエンスを兼ね備えたエネルギービジネスをイメージしています。

こうしたカーボンニュートラル社会の実現には、多くのイノベーションが必要となりますが、技術開発の進展や社会情勢などを見極めながら、柔軟に選択していくことが必要と考えています。

当社グループは、今後の技術進展や経済合理性などを踏まえながら、お客さま先を含めた、サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指します。



6ページはカーボンニュートラル実現に向けたロードマップです。

当社グループは、既にメタネーションの研究開発や再生可能エネルギーの普及拡大などに取り組んでいますが、今後は中長期的なロードマップに沿ってさらにそれらの活動を加速させるとともに、他業種とのアライアンスや行政との連携のもと、新たなイノベーションに取り組んでいきます。

また、燃料電池の更なる性能向上やVPP、石炭から天然ガスへの燃料転換など、低炭素化への取り組みにも積極的に取り組んでいきます。

以上が、当社グループのカーボンニュートラルビジョンの概要です。

次に2021年3月期第3四半期決算と通期見通しの概要について説明します。

8ページをご覧ください。

II. 21.3期第3四半期決算と21.3期見通しの概要

21.3期第3四半期決算及び21.3期見通しのポイント

Daigas Group

2021.3期第3四半期決算 対前年同期比較

売上高	ガス事業における販売単価低下、販売量減等により、 前年比1.2%(116億円)減収の9,628億円
経常利益	フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益等により、 前年比37.3%(221億円)増益の815億円 スライド差益は151億円(前年同期は77億円のスライド差益)
親会社株主に帰属する四半期純利益	前年比65.5%(228億円)増益の576億円

2021.3期見通し 対前回見通し(2020/10/29)比較

売上高	器具販売事業、託送供給事業の減収により、 前回見通し比0.5%(65億円)減収の1兆3,300億円
経常利益	ノルウェー領バレンツ海鉱区権益の一部売却による増益はあるが、託送供給事業、器具販売事業の減益もあり、 前回見通しから変更なしの1,000億円 スライド差益は42億円(前回見通しから変更なし)
親会社株主に帰属する当期純利益	前回見通しから変更なしの715億円

8

8ページには決算のポイントを簡単にまとめています。

当期の連結経常利益は、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献などにより、前年から221億円増益の815億円となりました。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年から228億円増益の576億円となりました。

通期見通しについては、出光スノーレ石油開発においてノルウェー領バレンツ海鉱区権益の一部売却による増益要因はありますが、託送供給事業、器具販売事業の減益もあり、結果的に連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益について、前回と同額の見通しとしています。

21.3期見通しについて

Daigas Group

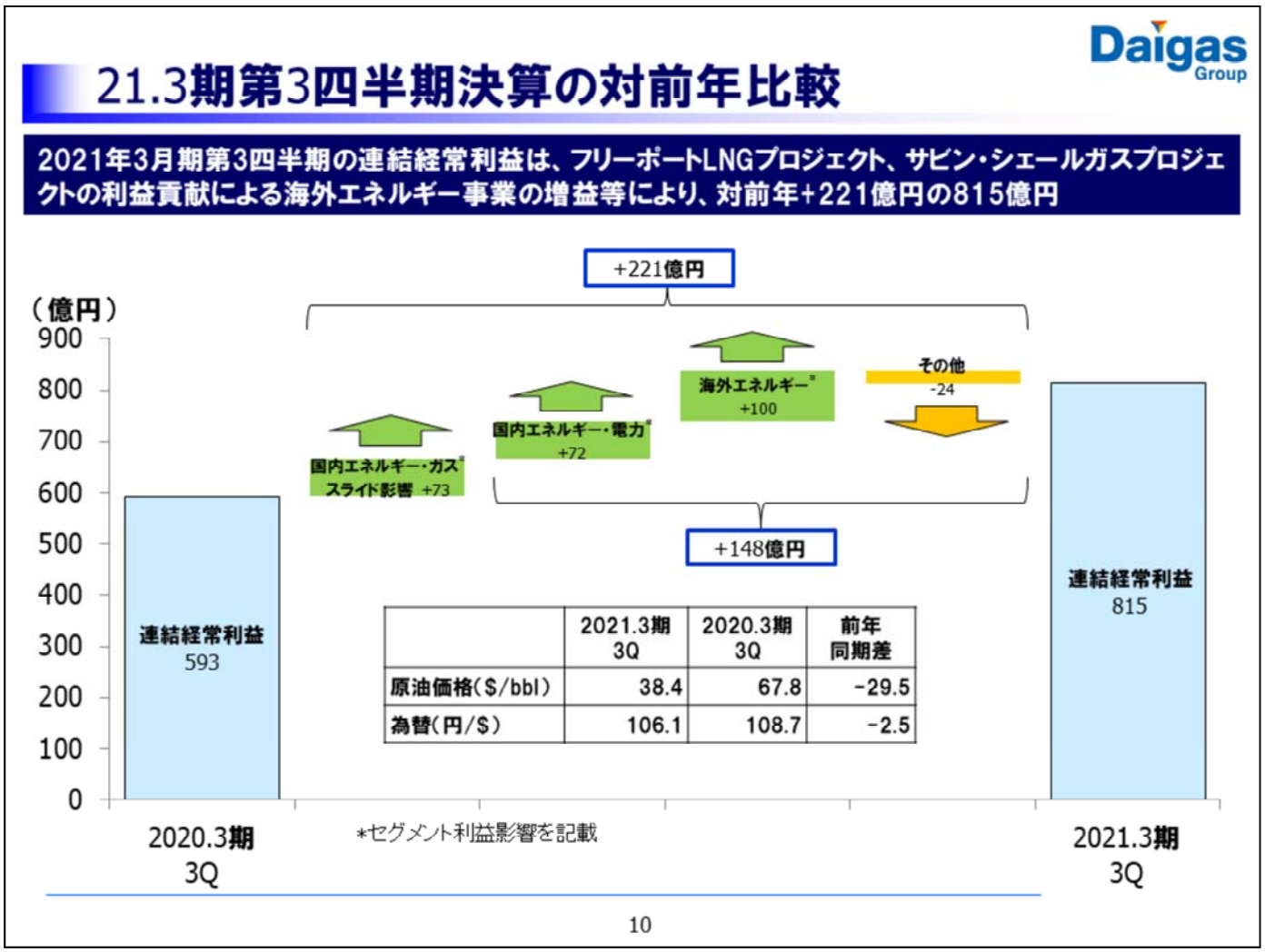
□ 2021年3月期第3四半期において緊急事態宣言発令、エネルギー需給やそれに伴うLNGスポット価格、卸電力取引所における取引価格上昇による大きな影響はないが、今後注視が必要

		21.3期 3Q	21.3期 通期見通し
新型コロナウイルス感染症拡大	国内エネルギー事業	□ 原油価格下落に伴うスライド影響により増益	-
		□ 家庭用ガス販売量は想定を上回って推移	□ 緊急事態宣言の発令による巣ごもり影響が発生する可能性あり
		□ 業務用等ガス販売量は前年から7.4%減少 □ 金属・硝子・飲食・ホテル業種を中心に減少 □ 託送供給量は想定を下回って推移	□ 緊急事態宣言の発令に伴う景気低迷の継続により、影響が拡大する可能性あり
		□ ガス離脱、電力獲得ともにペースが鈍化 □ 器具販売は想定を下回って推移	
		□ エネルギーの安定供給は維持	□ 引続き感染防止対策の徹底やLNG調達国の分散等により、エネルギーの安定供給を維持
	海外エネルギー事業	□ 原油価格下落、米国エネルギー価格低下により、上流事業、北米IPP事業が減益 □ 米国金利低下に伴うヘッジ会計適用外デリバティブの時価評価により減益影響	
	ライフ&ビジネスソリューション事業(LBS)	□ フィットネス事業、情報ソリューション事業、材料ソリューション事業の業績低下	□ 緊急事態宣言の発令に伴う経済活動縮小により、LBS事業全般で業績が低下する可能性あり
	成長投資	□ 建設工事の一部遅延が発生	-
エネルギー需給等	国内エネルギー事業	-	□ 低気水温影響によりガス・電力販売量が増加する可能性あり □ LNGスポット価格上昇による増減益影響が発生する可能性あり(転売・調達) □ 卸電力取引所における取引価格上昇による減益影響が発生する可能性あり

9

9ページに、新型コロナウイルス感染症拡大、エネルギー需給などが業績に与える影響をまとめています。

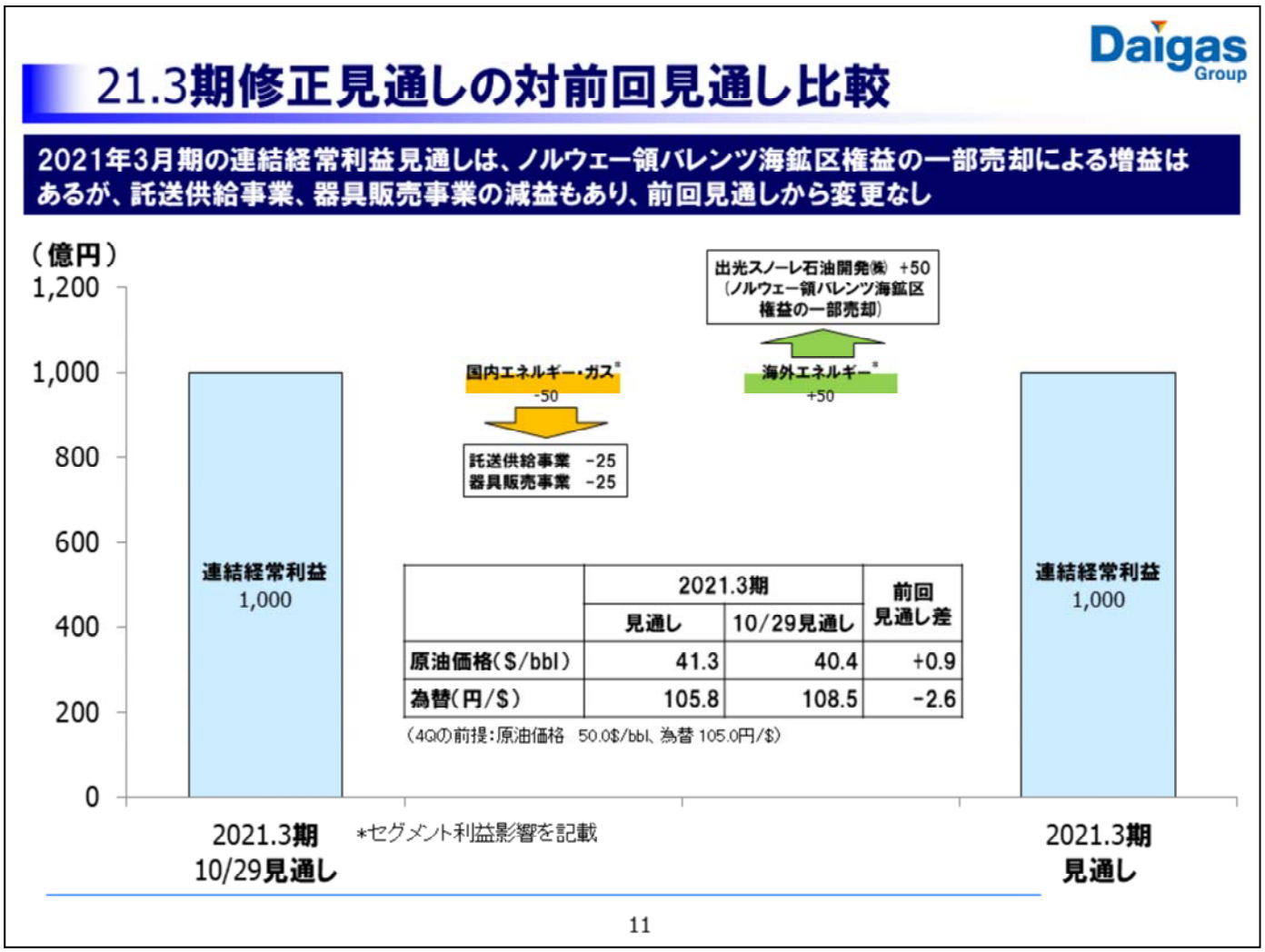
緊急事態宣言の発令、エネルギー需給やLNGスポット価格、卸電力取引所における取引価格上昇による大きな影響は、当第3四半期時点で発生していませんが、今後の業績に与える影響を注視する必要があると考えています。



	2021.3期 3Q	2020.3期 3Q	前年同期差
原油価格($/bbl)	38.4	67.8	-29.5
為替(円/$)	106.1	108.7	-2.5

10ページに、当第3四半期の連結経常利益について前年との比較をまとめています。

当期の連結経常利益は、ガス事業におけるスライド影響、電力事業の増益、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益などにより、前年から221億円の増益となりました。
なお、スライド影響については、第4四半期は差損局面に入る見通しです。



11ページは、連結経常利益通期見通しの前回見通しとの比較になります。

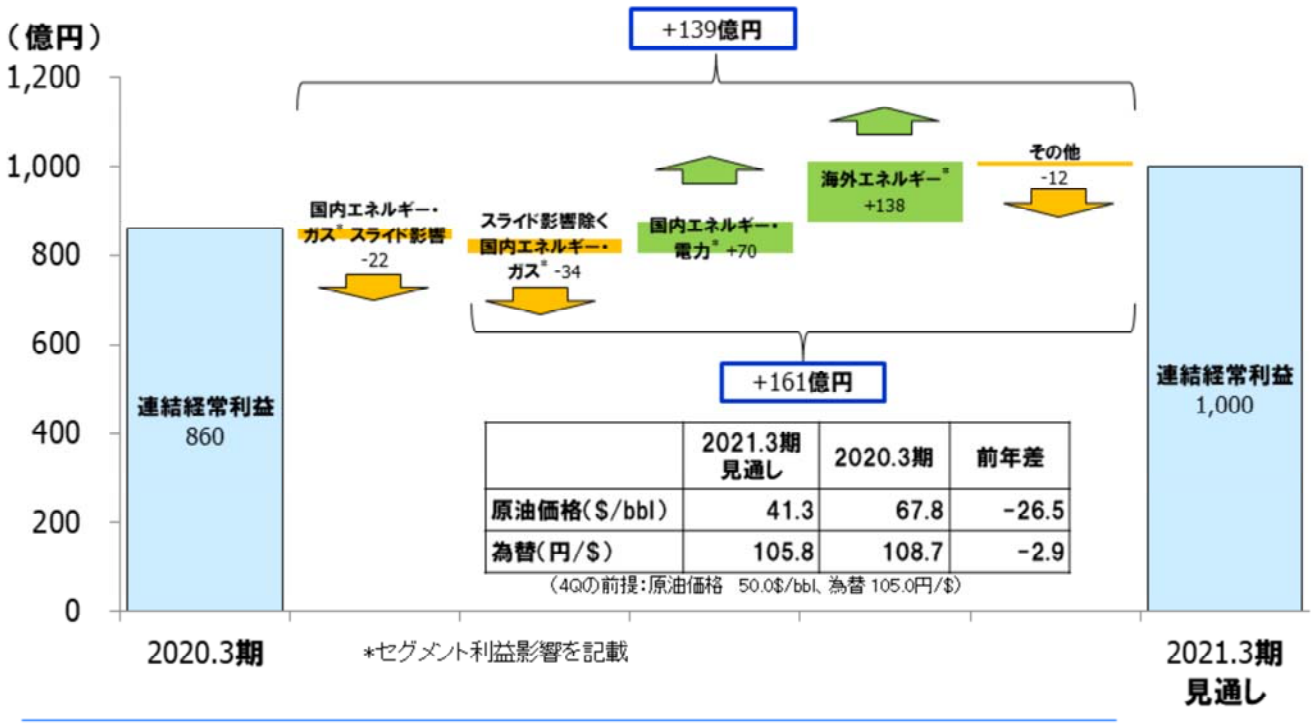
先ほどご説明した通り、連結経常利益は前回見通しから変更ありませんが、国内エネルギー・ガス、海外エネルギーのセグメント利益を修正しています。

国内エネルギー・ガスセグメント利益は、春先からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響による託送供給事業、器具販売事業の減益を織り込んだことにより、前回見通しから50億円の減益となる見通しです。
海外エネルギーセグメント利益は、出光スノーレ石油開発の増益により、前回見通しから50億円の増益となる見通しです。

なお、足元で低気温によるガス・電力販売量増等の増益影響、卸電力取引所における電力調達価格上昇による減益影響が一部顕在化していますが、国内エネルギー事業全体に与える利益影響は現時点で見通しを変更するほどの規模ではなく、また、今後も変動する可能性があると考えられるため、今回の見通しにはいずれも織り込んでおりません。引続き状況を注視していきます。

21.3期見通しの対前年比較

□ 連結経常利益見通しは、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益等により、対前年+139億円の1,000億円

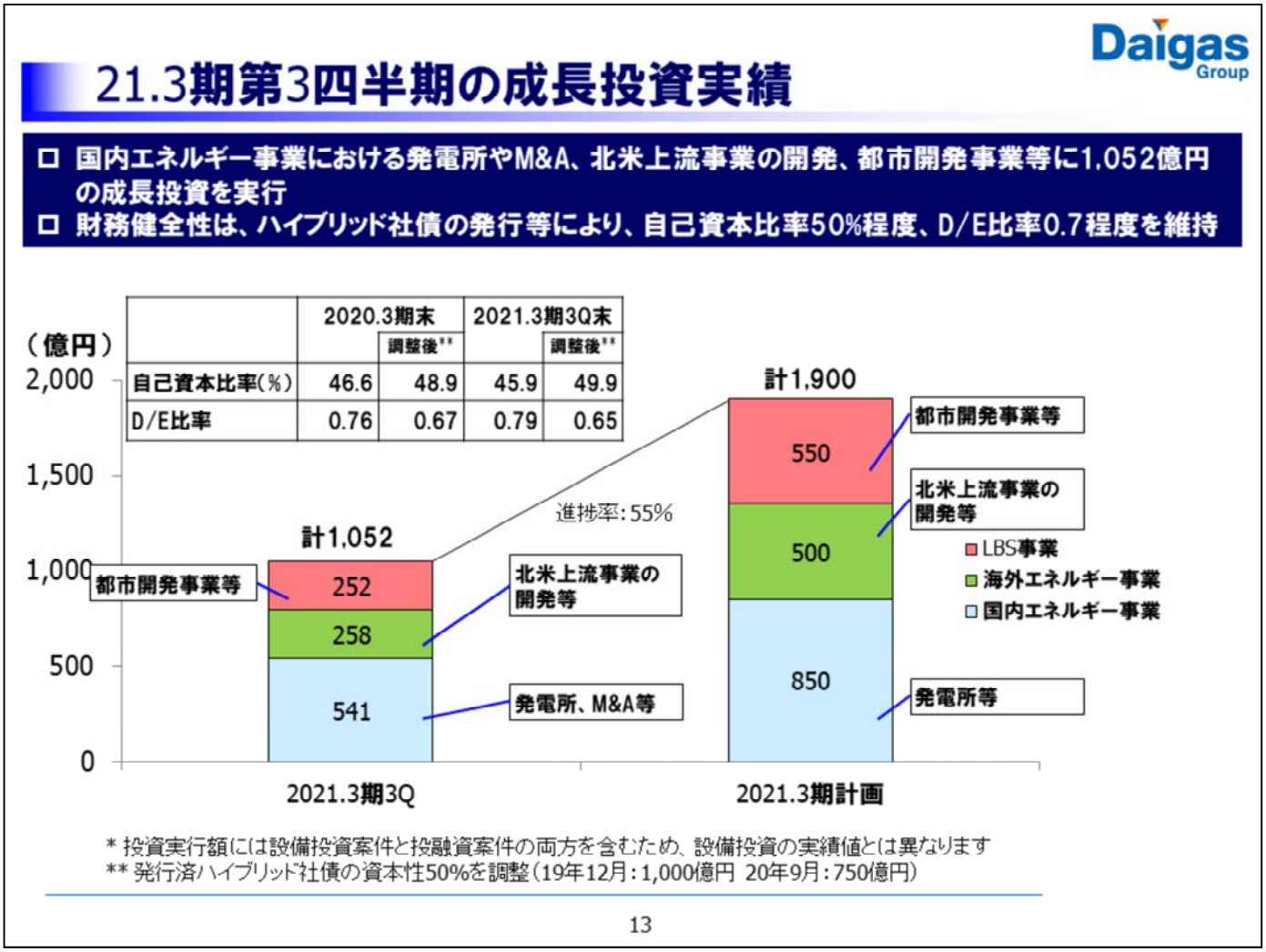


	2021.3期見通し	2020.3期	前年差
原油価格（$/bbl）	41.3	67.8	-26.5
為替（円/$）	105.8	108.7	-2.9

（4Qの前提：原油価格　50.0$/bbl、為替 105.0円/$）

12

修正見通しと前年との比較を、12ページにまとめていますので、ご参照ください。



13ページは成長投資になります。

当第3四半期は、国内エネルギー事業におけるM&Aや発電所、海外エネルギー事業における北米上流事業の開発など、1,052億円の成長投資を実行しました。

2020年12月末時点において、財務健全性指標は、一部について資本性が認められるハイブリッド社債を考慮すると、自己資本比率が49.9%、D/E比率が0.65となり、中期経営計画で掲げた自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。

21.3期第3四半期の主なトピックス①

4月	➢ 「扇島都市ガス供給株式会社」の都市ガス製造・供給設備の商業運転開始 ➢ 大阪ガスとNTT ComがAI自動音声応対によるコンタクトセンター受付サービスを開始 ～「ガス設備調査 訪問日時の変更」受付の利便性向上～ ➢ ドローンを活用したインフラ点検ソリューションを提供する株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマークへの出資 ➢ 画像解析を中心に優れたAI技術を保有するベンチャー企業株式会社HACARUSへの出資
5月	➢ 福島天然ガス発電所1号機の営業運転開始 ➢ 大阪ガスによるグローバルベイス社の株式取得 ➢ IoTプラットフォームを活用したシャープとの機器連携の開始～シャープ提供のスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～
6月	➢ 家庭用燃料電池エネファームによるバーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業を開始～1,500台が"ツナガル"VPP実証～ ➢ シンガポールSQC Investment Pte. Ltd.への出資によるベトナムでの産業ガス製造・販売事業への参画
7月	➢ ウィズプラン第3弾！「ウィズABEMAプラン」の受付開始 ➢ 自営等BWAシステムを活用したDX推進による現場業務の効率化 ～大阪ガス泉北製造所のスマートファクトリー化～ ➢ IoT対応ツナガルde警報器「スマびこ」の発売と災害・防犯情報提供に関する大阪市、大阪府警察との連携 ➢ 「ハートフル弁当プロジェクト」の実施 ～新型コロナウイルスと戦う医療従事者の皆さまを応援～ ➢ （仮称）佐賀県唐津市沖洋上風力発電事業に係る『計画段階環境配慮書』の送付および縦覧
8月	➢ 公募型ハイブリッド社債（公募劣後特約付社債）の発行に関するお知らせ ➢ ソニーネットワークコミュニケーションズとのIoT機器連携の開始 ～マルチファンクションライトのスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～ ➢ 賃貸集合住宅における利便性およびセキュリティの向上を目指した協業 ➢ 福島天然ガス発電所2号機の営業運転開始 ➢ 米国・イリノイ州における天然ガス火力発電事業への参画 ➢ ウエストHDとの再エネ電力調達に関する契約締結～新設小規模太陽光発電設備から相対契約による長期電力調達～

14・15ページに、当第3四半期の主なトピックスをまとめています。

21.3期第3四半期の主なトピックス②

9月	➢ 公募型ハイブリッド社債（公募劣後特約付社債）の発行条件決定に関するお知らせ ➢ 2020年度 全社総合防災訓練の実施 ➢ ご自宅からWebで参加できる「おうちで！みんなで！つながるガスてん」を開催します ➢ 住まいのお困りごとを解決し安心をお届けする「住ミカタ・サービス」のサービスメニュー拡充、及び住ミカタ会員数40万人突破
10月	➢ 大阪ガスによるパレットクラウド社の株式取得 ➢ 導管部門分社化の方向性 ➢ 大阪ガスの新電気料金メニュー「ミライトでんき」の受付開始 ➢ 再生可能エネルギーと地域が共に発展していくことを目指して5社で「FOURE構想」の共同検討に合意 ➢ Osaka Gas Niugini Pty Ltd の株式譲渡 ➢ 陸上風力発電事業への共同出資
11月	➢ 愛知県田原市におけるバイオマス発電所の事業化決定 ➢ 新潟県長岡市における液化炭酸ガス製造プラントの商業運転開始
12月	➢ スマートメーターシステムの共同開発 ➢ 千葉県市原市におけるバイオマス発電所の商業運転開始 ➢ 合同会社D&Dソーラーへの出資および同社を通じた鹿児島県出水市における太陽光発電所の取得
1月	➢ Daigasグループ カーボンニュートラルビジョンの策定～2050年脱炭素社会実現に向けた挑戦～ ➢ 都市ガスの脱炭素化に貢献「革新的メタネーション」実現のキーとなる新型SOECの試作に成功～水素・液体燃料などの高効率製造にも活用可能な技術の開発～ ➢ 脱炭素化に貢献するケミカルルーピング燃焼技術の研究開発の開始について～バイオマス燃料による水素・電力・CO2の同時製造～ ➢ 三井化学大阪工場にて高効率ガスタービン発電システムの営業運転を開始～分散型電源導入によりCO2排出量削減に貢献～ ➢ ウエストホールディングスとの太陽光電力調達に関する契約締結～2021年度に開発する20万kW分の電力と環境価値を相対で調達～

*プレスリリース実施月を記載

III.　21.3期第3四半期決算と21.3期見通し

21.3期第3四半期実績I

連結：億円（）内は連単倍率	A. 21.3期 3Q		B. 20.3期 3Q		A-B	(A-B)/B (%)	備考
売上高	(1.29)	9,628	(1.26)	9,745	-116	-1.2%	
営業利益	(2.03)	748	(1.92)	542	+205	+37.9%	フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益等
経常利益	(1.78)	815	(1.49)	593	+221	+37.3%	
四半期純利益*	(1.68)	576	(1.12)	348	+228	+65.5%	
EBITDA**		1,586		1,262	+323	+25.6%	

* 親会社株主に帰属する四半期純利益
** EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

スライド差損益		+151	+77	+73	-
スライド差損益控除後経常利益		664	515	+148	+28.8%

原油価格***	$/bbl	38.4	67.8	-29.5
為替レート	円/$	106.1	108.7	-2.5

*** 21.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

17

17ページは実績数値まとめになります。

21.3期第3四半期実績II

単位：億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 3Q	B.20.3期 3Q	A-B	A.21.3期 3Q	B.20.3期 3Q	A-B	
国内エネルギー・ガス	6,547	6,942	-395	421	344	+76	利益：スライド影響等
国内エネルギー・電力	1,631	1,429	+201	118	45	+72	利益：販売量増等
海外エネルギー	494	432	+61	136	35	+100	利益：フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献等
ライフ＆ビジネスソリューション	1,543	1,568	-25	127	134	-7	利益：情報ソリューション事業、フィットネス事業の減益等
消去又は全社	-587	-628	+40	42	22	+20	
連結	9,628	9,745	-116	845	583	+262	

* セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益
**2020年4月に㈱ガスアンドパワー(国内エネルギー・電力)をDaigasガスアンドパワーソリューション㈱(国内エネルギー・ガス)に吸収合併。20.3期実績はこの影響を考慮して算定

内、ヘッジ会計適用外のDV時価評価影響
21.3期3Q -65 , 20.3期3Q -36, 前年差 -29

18

18ページはセグメント別になります。

21.3期第3四半期実績III

連結：億円	A. 21.3期 3Q末	20.3期 3Q末	20.3期 B. 期末	A-B	備考
総資産	22,059	21,255	21,404	+654	成長投資の進捗等
自己資本	10,130	9,925	9,974	+155	
有利子負債	7,999	7,814	7,540	+459	社債発行等
在籍人員（人）	21,054	20,519	20,543	+511	Jacobi、新規連結影響等
自己資本比率	45.9%	46.7%	46.6%	-0.7%	
（ハイブリッド社債考慮後*）	（49.9%）	（49.0%）	（48.9%）	(+1.0%)	
D/E比率	0.79	0.79	0.76	+0.03	
（ハイブリッド社債考慮後*）	（0.65）	（0.70）	（0.67）	（-0.02）	

*発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

連結：億円	A. 21.3期 3Q	B. 20.3期 3Q	A-B	備考
設備投資	1,288	807	+480	成長投資の進捗等
減価償却費	740	679	+60	
フリーキャッシュフロー**	853	549	+303	

** フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー（税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出）−品質向上投資による支出

19

19ページでは、資産、負債等について整理しています。

21.3期見通しI

連結：億円（()内は連単倍率）	A. 21.3期見通し		B. 21.3期10/29見通し		A-B	(A-B)/B (%)	備考
売上高	(1.30)	13,300	(1.30)	13,365	-65	-0.5%	器具販売事業、託送供給事業の減収
営業利益	(2.06)	885	(1.95)	935	-50	-5.3%	託送供給事業、器具販売事業の減益
経常利益	(1.85)	1,000	(1.69)	1,000	-	-	ノルウェー領バレンツ海鉱区権益の一部売却による増益
親会社株主に帰属する当期純利益	(1.72)	715	(1.59)	715	-	-	
EBITDA*		2,000		2,000	-	-	

* EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

スライド差損益	42	42	-	-	
スライド差損益控除後経常利益	957	957	-	-	

原油価格**	$/bbl	41.3	40.4	+0.9	4Q 50.0$/bbl
為替レート	円/$	105.8	108.5	-2.6	4Q 105.0円/$

** 21.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

20

20ページから24ページは、見通し関連をまとめています。

21.3期見通しII

単位：億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期見通し	B.21.3期 10/29見通し	A−B	A.21.3期見通し	B.21.3期 10/29見通し	A−B	
国内エネルギー・ガス	8,635	8,700	-65	475	525	-50	利益：託送供給事業、器具販売事業の減益
国内エネルギー・電力	2,210	2,210	-	150	150	-	
海外エネルギー	790	790	-	220	170	+50	利益：ノルウェー領バレンツ海鉱区権益の一部売却による増益
ライフ＆ビジネスソリューション	2,175	2,175	-	190	190	-	
消去又は全社	-510	-510	-	-	-	-	
連結	13,300	13,365	-65	1,035	1,035	-	

＊セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益

21.3期見通しIII

連結：億円（()内は連単倍率）	A. 21.3期見通し		B. 20.3期		A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.30)	13,300	(1.26)	13,686	-386	-2.8%	
営業利益	(2.06)	885	(1.83)	837	+47	+5.6%	海外エネルギー事業における増益等
経常利益	(1.85)	1,000	(1.47)	860	+139	+16.3%	
親会社株主に帰属する当期純利益	(1.72)	715	(0.93)	417	+297	+71.1%	前年度の海外上流事業における減損損失の反動等
EBITDA*		2,000		1,809	+190	+10.5%	

* EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法投資損益

スライド差損益		42		65	-22	-	
スライド差損益控除後経常利益		957		795	+161	+20.4%	海外エネルギー事業における増益等

原油価格**	$/bbl	41.3	67.8	-26.5	4Q 50.0$/bbl
為替レート	円/$	105.8	108.7	-2.9	4Q 105.0円/$

** 21.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

21.3期見通しIV

単位：億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期見通し	B.20.3期	A-B	A.21.3期見通し	B.20.3期	A-B	
国内エネルギー・ガス	8,635	9,737	-1,102	475	531	-56	利益：スライド影響等
国内エネルギー・電力	2,210	2,048	+161	150	79	+70	利益：販売量増等
海外エネルギー	790	612	+177	220	81	+138	利益：フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献等
ライフ＆ビジネスソリューション	2,175	2,194	-19	190	196	-6	利益：前年並み
消去又は全社	-510	-906	+396	-	1	-1	
連結	13,300	13,686	-386	1,035	890	+144	

＊セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益

21.3期見通しV

連結：億円	A. 21.3期末見通し	B. 20.3期末	A-B	備考
総資産	22,852	21,404	+1,447	成長投資の進捗等
自己資本	10,568	9,974	+593	
有利子負債	8,344	7,540	+804	資金調達等
在籍人員（人）	21,450	20,543	+907	Jacobi、オージス総研G等
自己資本比率	46.2%	46.6%	-0.4%	
（ハイブリッド社債考慮後*）	(50.1%)	(48.9%)	(+1.1%)	
D/E比率	0.79	0.76	+0.03	
（ハイブリッド社債考慮後*）	(0.65)	(0.67)	(-0.02)	

連結：億円	A. 21.3期見通し	B. 20.3期	A-B	備考
設備投資	2,030	1,310	+719	成長投資の進捗等
減価償却費	946	919	+27	
フリーキャッシュフロー**	803	1,253	-450	運転資本の増等
ROA	3.2%	2.0%	+1.2%	
ROE	7.0%	4.2%	+2.8%	
EPS（円/株）	172.0	100.5	+71.5	
BPS（円/株）	2,541.7	2,399.1	+142.7	

*発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整
**フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー（税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出）－品質向上投資による支出

21.3期第3四半期販売実績

Daigas Group

*ガス供給件数＝取付メーター数 －閉栓中メーター数(空家等) －他社ガス供給件数
**用途別の差異要因はP.27・28に記載

■ ガス販売

45MJ/m³		A. 21.3期3Q	B. 20.3期3Q	A-B	(A-B)/B (%)
個別	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,069	5,287	-218	-4.1%
	新設工事件数(千件)	71	73	-2	-2.1%
	家庭用1戸当り販売量(m³/月)	24.6	23.2	+1.4	+6.1%
	家庭用**	1,090	1,077	+13	+1.2%
	業務用等**	3,810	4,114	-304	-7.4%
ガス販売量合計(百万m³)		4,900	5,191	-291	-5.6%
連結ガス販売量		4,928	5,220	-293	-5.6%

■ 電力販売(連結)

		A. 21.3期3Q	B. 20.3期3Q	A-B	(A-B)/B (%)
	小売	3,914	3,137	+776	+24.7%
	卸等	7,522	6,268	+1,254	+20.0%
国内電力販売量(百万kWh)		11,435	9,405	+2,030	+21.6%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		1,476	1,241	+235	+18.9%

■お客さまアカウント(連結)

	A. 21.3期3Q末	B. 20.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)	931	910	+21	+2.3%

25

25ページは、販売実績をまとめています。

当第3四半期の連結ガス販売量は、主に個別における業務用等の減少により、前年から5.6%減少の49億28百万m3となりました。
個別家庭用は、他社へのスイッチング影響がありましたが、気水温影響などにより、前年から1.2%増加の10億90百万m3となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大による、いわゆる巣ごもりによる需要増も一定程度影響しているものと考えられます。
個別業務用等は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響などにより、前年から7.4%減少し、38億10百万m3となりました。

電力販売量は、新規需要開発や福島天然ガス発電所の営業運転開始などに伴い小売、卸等の販売量が共に増加したことで、前年から21.6％増加の114億35百万kWhとなりました。
低圧電気供給件数は、2020年12月末時点で147万6千件となっています。

21.3期販売見通し

通期見通しは2020年10月発表時から変更ありません。

*用途別の差異要因はP.27・28に記載

■ ガス販売

45MJ/m³

		A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B)/B (%)
個別	家庭用*	1,817	1,798	+19	+1.1%
	業務用等*	5,100	5,526	-427	-7.7%
ガス販売量合計(百万m³)		6,917	7,324	-408	-5.6%
連結ガス販売量		6,953	7,362	-410	-5.6%

■ 電力販売(連結)

	A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B)/B (%)
国内電力販売量(百万kWh)	16,567	13,189	+3,378	+25.6%

■お客さまアカウント(連結)

	A. 21.3期末 見通し	B. 20.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)	930	910	+20	+2.2%

26

26ページは、通期の販売見通しになります。前回見通しからの変更はありません。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

家庭用ガス販売 21.3期第3四半期実績、21.3期見通し

Daigas Group

21.3期3Q実績

	対前期	備考
調定件数	-3.1%	他社へのスイッチング等
気水温影響	+5.7%	平均気温20.4度（対前年同期 -0.2度）
その他	-1.4%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+1.2%	

21.3期見通し

通期見通しは2020年10月発表時から変更ありません。

- 平年気水温を前提とした気水温影響の反動による増加等により、前年比+1.1%、19百万m3増の1,817百万m3を見込む。

業務用等ガス販売 21.3期第3四半期実績、21.3期見通し

Daigas Group

21.3期3Q実績

	対前期	備考
需要開発	+0.9%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.0%	
設備稼働増減	-6.7%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響等
個別要因	-0.9%	他社へのスイッチング等
その他	-0.8%	
合計	-7.4%	

21.3期見通し

通期見通しは2020年10月発表時から変更ありません。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大影響等により、前年比-7.7%、427百万m^3減の5,100百万m^3を見込む。

IV. 参考資料

21.3期第3四半期の売上高差異（対前年）

20.3期3Q → 21.3期3Q （差異）

9,745億円 9,628億円（-116億円）

- 個別：-283億円
  - ガス事業売上高 -610億円
    - ・スライド影響 -378億円
    - ・数量差等 -231億円
  - その他売上高 +327億円
    - ・電力・LNG販売量増等
- 連結-個別：+167億円
  - Osaka Gas USA +118億円
  - 大阪ガス都市開発 +59億円

21.3期第3四半期の経常利益差異（対前年）

20.3期3Q → 21.3期3Q （差異）

593億円　815億円（+221億円）

＋－の符号は利益への影響を表す。

- 個別：+58億円
  - ガス事業粗利　+41億円
    - ・スライド影響　+73億円
    - ・数量差等　－31億円
  - その他事業利益　+78億円
    - ・電力事業等
  - ガス事業費用増加　－33億円
    - ・諸経費の増加等
  - 営業外収支　－28億円
    - ・受取配当金の減少等
- 連結－個別：+163億円
  - Osaka Gas USA　+99億円
  - 持分法投資損益　+56億円
  - ＊セグメント利益影響を記載

21.3期見通しの売上高差異（対前年）

20.3期　→ 21.3期見通し（差異）

13,686億円　13,300億円（−386億円）

- 個別：−648億円
  - ガス事業売上高　−1,039億円
    - ・スライド影響　−749億円
    - ・数量差等　−290億円
  - その他売上高　+390億円
    - ・電力・LNG販売量増等
- 連結−個別：+261億円
  - Osaka Gas USA　+194億円
  - 大阪ガス都市開発　+49億円

21.3期見通しの経常利益差異（対前年）

20.3期　→ 21.3期見通し（差異）

860億円　1,000億円　(+139億円)

＋－の符号は利益への影響を表す。

- 個別：－44億円
  - ガス事業粗利　－75億円
    - ・スライド影響　－22億円
    - ・数量差等　－53億円
  - その他事業利益　＋82億円
    - ・電力事業等
  - ガス事業費用増加　－34億円
    - ・諸経費の増加等
  - 営業外収支　－17億円
    - ・受取配当金減等
- 連結－個別：＋184億円
  - Osaka Gas USA　＋97億円
  - 持分法投資損益　＋97億円
  - 大阪ガスマーケティング　＋36億円**
  - Osaka Gas Australia　－46億円

*セグメント利益影響を記載

**21.3期営業利益額を記載

年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
  - 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。
- **原油価格**
  - LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-0億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
  - LNG価格が米$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/$の変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-5億円変動する可能性がある。
- **原料費**
  - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
  - 金利+1%の変動に対し、21.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。

以　上